東京都立南多摩中等教育学校
防災支援隊

防災新聞

2024年（令和６年）
６月号

防災気象情報の活用

6月に入り、雨の日が多くなってきました。初夏から秋にかけては、台風や前線の影響で大雨、洪水、暴風等が発生しやすい季節です。大雨や台風は、川の氾濫や土石流などを起こしやすく、人々の生活や命を脅かす自然災害が発生することもあります。

そこで今回は、台風などが発生したときの防災行動に役立つ、「防災気象情報」についていくつか紹介します。

① 警報・注意報

命に危険が及ぶおそれのある現象が予想される数日前から、気象庁では、「早期注意情報」「気象情報」を発表し、危険度の高まりに応じて「注意報」「警報」「特別警報」を段階的に発表しています。

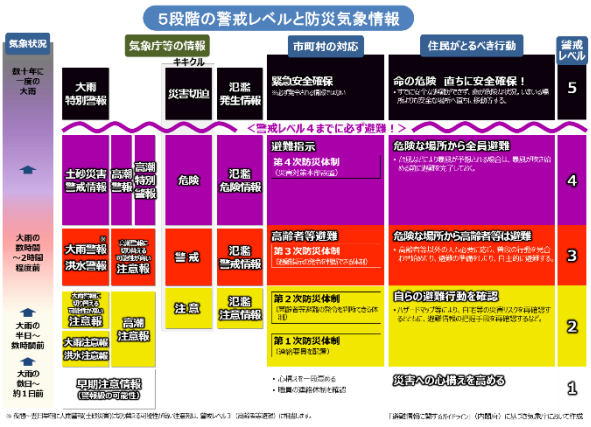
② 土砂災害警戒情報

雨が降り出したら、「土砂災害警戒情報」にも注意しましょう。これは、「警報」の発表後、土砂災害発生の危険度がさらに高まったときに、都道府県と気象庁が共同で発表しており、非常に危険な状態であることを伝える情報です。

③キキクル（大雨・洪水警報の危険度分布）

気象庁では、どこで危険度が高まっているかがリアルタイムで地図上に色分けされる「キキクル」も提供しています。パソコンやスマートフォンからも確認でき、避難行動の目安となります。

台風などによる様々な被害を防ぐために、国や都道府県では対策を行っています。しかし、それでも自然の力が勝って災害が発生することがあります。災害から命を守るには、国や都道府県が行う対策などの「公助」だけでなく、私達一人ひとりの「自助」「共助」が大事になります。「防災気象情報」などをもとに、各自が適切に防災行動を起こせるようにしましょう。（5年渡邉）



出典：気象庁

南海トラフの半割れ

南海トラフ巨大地震という言葉を一度は耳にしたことがあると思います。そんな南海トラフ巨大地震では地震の発生の仕方がいくつか予想されています。その中の一つが半割れです。

東側の震源域、西側の震源域がそれぞれ別々に、しかも時間を空けてずれ動くケースです。一回目の「半割れ」の地震のあと、まだずれ動いていない領域で地震が発生。このケースで怖いのは、地震や津波で大きな被害が出ている地域の救出や支援、復旧活動をしている間に、被害が出ていなかった別の地域でも地震が発生することです。マグニチュード8以上の地震が立て続けに起こるのも怖いところです。全割れ、つまりすべての震源域が動くケースでも死者は最悪32万人と予想されており、半割れでは被害が長期化する可能性もあります。

半割れが起こった想定のドラマをNHKが制作していました。ストーリーも面白く、学びが多いドラマです。かく言う私も半割れの存在をこれを通して知りました。気になった方は見てみてください。（3年　中里）

〈参考文献〉

南海トラフ巨大地震 連続する「半割れ」 発生確率・リスク・メカニズムは？ - NHK
https://www.gov-online.go.jp/useful/article/201206/1.html
https://www.jma.go.jp/jma/kishou/know/ame_chuui/ame_chuui_p8.html